中谷県委員長を囲む座談会 ー総選挙を終えてー

Nさん） 「総選挙では、四国で白川さん当選ならず、共産党も議席を減らし元気が出ない」の声もありますね。

中谷県委員長） みんなが頑張ったからがっかりする気持ちはわかる。一方、選挙の結果の全体を冷静に見ることが大事。

Cさん） というと？

中谷） 選挙結果で一番大事なことは、国民が自民党と公明党へ厳しい審判を下して、過半数が取れなかったということ。維新の会も後退。その流れをつくったのはまさしく共産党だ。

N） 確かに選挙のお礼に行ったら『共産党はよくやった』と励まされました。

C） 確かに、しんぶん赤旗の裏金問題や2000万円の支給の暴露が、自民党に大打撃になった。これは自民党自身が言っているから間違いないかな、と。

中谷） 与党が衆議院で過半数取れなかったから、石破政権は大変になる。

C） どうなるんですか？

中谷） 数を頼りにした悪法のごり押しができないし、逆に野党が多数派になれば要求実現の道が開けてくる。

N） 改憲勢力も三分の二を割り、簡単には改憲の発議（ほつぎ）ができなくなりましたね。

C） これからは野党の姿勢も問われる。私たちが運動を広げて願いを実現させるチャンスですよね。

中谷） 新しい政治プロセスというやつだね。選挙では対話すればいくらでも支持は広がる気がした。自民党の幹部だという人も、『もう共産党しかない』といっていたくらいだ。だから『頑張っただけ結果につながる』選挙だったというのは、その通りだったと思う。

N） 確かに『折り入って』と支持を広げてほしいとお願いすると、協力してくれた人はたくさんいました。

C） ただなぜ共産党が伸びなかったかが問題では？　どうして支持が　【3面につづく】

気候変動とエネルギー転換

柏 秀樹（自然エネルギー100％社会学習会代表）

③「緩和」と「適応」　～高温対策米として誕生した「おいでまい」～

「おいでまい」は、香川県が県の気候・風土に合わせて開発したブランド米。県のホームページでは「つや、粒ぞろいが良く、米の食味ランキングにおいて最高ランクの「特A」を通算6回獲得するなど、おいしさは折り紙付き」と謳っています（香川県HP「さぬき米おいでまい」）。このおいでまいが、高温対策米として開発されたことはご存知でしょうか？それまでの主力品種が温暖化によって品質が低下したため、暑くても白濁しにくい品種として開発されたのです（香川県HP「おいでまい誕生秘話」）。

地球温暖化対策には、温暖化の進行を抑えて気候を安定させる「緩和」と、温暖化の進行に生活や生産のあり方を合わせて変化させる「適応」があります。長い時間軸の中で温室効果ガス（とりわけCO2）排出量を削減し、2050年までに排出ゼロにすることで気候を安定化させるのが、温暖化の「緩和策」で、世界全体が協力して取り組む必要があります。これに対し「適応」策は、温暖化の影響の程度やあり方が様々であるため、例えば「海面上昇に備えて高い堤防を築く」など、地域や国によって様々な対策が必要です。おいでまいの開発も、香川の農業における適応策の一つです。適応は、温暖化が現実の問題として進行している現在、必要不可欠ですが、かと言って適応策だけでは温暖化の進行を食い止めることができません。長期的な視点から緩和策に取り組んでいくことも必要です。とりわけ化石燃料を大量に消費してきた先進工業国には、高い削減目標が求められます。途上国の中には、キリバスやモルディブのように排出量が少ないけれども温暖化による海面上昇の被害を真っ先に受ける「気候脆弱国」が数多くあります。そのような国・地域に対する適応策を先進国が援助することも、国際的な課題になっています。

↑香川県HP「さぬき米おいでまい」より

【2面から】集まらなかったのですか？

中谷県委員長） あらためて自力の不足を痛感。支持拡大がかなり遅れ、得票目標の6割しかできず、訴えを充分に届けきれなかった。今こそ世代継承をすすめ、党員や新しい読者をどんどん増やして、来年の参院選挙こそ共産党を躍進させていこう。

民青がシールアンケート

民青同盟香川県委員会は20～26日まで連日、高松市の駅頭でシールアンケートと街頭宣伝に取り組みました。

自民党が裏金で非公認になった候補者に政党助成金2000万を振り込んだ問題を同盟員が訴えると、30代男性は「『赤旗』の報道はすごい。税金2000万円を非公認候補に出すのは偽装非公認だ。政党助成金も企業・団体献金も受けとらない共産党を応援する」と激励しました。

20代女性は「物価高騰でレトルト食品や乾麺が主食。医療費がとても高くて、病院代のためにさらに食費を節約する」と語り、「共産党の政策いいですね」と好反応でした。

60代女性は「日本の食料自給率は38％で、戦争になったら物資が入らなくなる。農業支援をしてほしい」とのべ、共産党の政策を伝えると、女性は党への支持を表明しました。

シリーズ「わが町は今」

小豆島町議　鍋谷真由美

小豆島町は、県下一高齢化率が高い町です。高齢者では、老々介護世帯や一人暮らし世帯が増加し、地域でのサロン活動や助け合いなどの取り組みもありますが、施設入所の待機者も多く、看護師や介護士不足。

町民の移動手段として町と町民も出資するオリーブバスが定期運行されています。運転手から「休みを増やしてほしい」という声にこたえ、議会で待遇改善を取り上げてきましたが、今年から運転手不足と働き方改革のために、減便されてしまいました。また私の議会での質疑で、交通弱者の移動手段の確保について、当局は「その必要性は認識している」と言うのですが、「循環バスの実証実験は利用者が少なく、オンデマンドタクシーは、タクシー事業者と費用面で合意ができないためにできない」という答弁でした。町民が安心して住み続けられる小豆島町を実現するために引き続き力をつくします。

子育て支援については、18歳までの医療費無料化や給食費の無償化を県下でも早い時期に実施してきたことは、署名の取り組みや議会で取り上げてきた成果で、子育て世帯から喜ばれています。

いま、内海地区にある3小学校を統合して2027年4月に統合小学校を開校する予定で、統合準備委員会を開催し進められています。これは13年前に初めての統合の答申が出されてから、先送りされていたものが、現町長になって具体化され進めているものです。統合を求める声が多いなか、保護者有志から、新小学校に向けて、保護者の声をもっと聴いて反映させてほしいと意見が出され、通学路の安全、服装の問題、そして、教育方針などについて集まって話し合い、アンケートの実施などをしています。私もその集まりに参加し、みなさんの意見を聞き、議会でも多くの町民の意見を取り入れた学校づくりを求めて質問に反映させています。

くらしの問題では、9月議会でエアコン購入補助金の新設を求めたところ、「省エネ家電購入補助金は、家庭で取り組める地球温暖化対策であり、県内の自治体等の取り組みなどを参考に研究・検討したい」との前向きの答弁がありました。

その他、移住促進や観光関連など多くの課題があります。一つの町だけでは難しい問題も山積で、県政、国政を変えていくことなしには実現できないこともありますが、住民と力を合わせてがんばります。

県保険医協会が声明

香川県保険医協会は10月29日、衆院選結果を受け「現行の健康保険証存続を求める」との太田展生理事長の声明を出しました。

声明は、現行の健康保険証廃止まで1カ月を切り、医療現場でのマイナ保険証のトラブルが収まらない中でマイナ保険証への一本化を止め、現行の健康保険証の存続を政府は行うべきだと主張。「与党の過半数割れは、マイナ保険証一本化は時期尚早という民意が反映した国民の審判だ」としています。